

Berezin transforms related to multiplicity-free actions (2): $U(n)$ -action on \mathbb{C}^n

野村 隆昭

京大・理

ユニタリ群 $U(n)$ の \mathbb{C}^n への自然な作用は重複度フリーな作用になっている。
 $\mathcal{P}_k(\mathbb{C}^n)$ で \mathbb{C}^n 上の k 次斉次の正則な多項式関数の空間を表すと

$$\mathcal{P}(\mathbb{C}^n) = \sum_{k=0}^{\infty} \mathcal{P}_k(\mathbb{C}^n) \quad (k \neq k' \implies \mathcal{P}_k(\mathbb{C}^n) \not\cong \mathcal{P}_{k'}(\mathbb{C}^n)).$$

$\mathcal{P}_k(\mathbb{C}^n)$ の再生核は

$$\kappa_k(z, w) := \frac{(z \cdot \bar{w})^k}{k!}$$

であるから、 $\mathcal{P}_k(\mathbb{C}^n)$ に付随する Berezin 変換 B_k は

$$B_k f(z) = \int_{\mathbb{C}^n} b_k(z, w) f(w) dm(w) \quad (f \in L^2(\mathbb{C}^n)),$$

$$\text{ただし,} \quad b_k(z, w) := \frac{1}{\pi^n k!} e^{-\|z\|^2/2} e^{-\|w\|^2/2} \frac{|z \cdot \bar{w}|^{2k}}{\|z\|^k \|w\|^k}.$$

極座標 $z = ru$ ($r > 0$, $u \in S^{2n-1}$) により $dm(ru) = r^{2n-1} dr d\sigma(u)$ (σ は S^{2n-1} 上の標準的な回転不変測度) であるから

$$L^2(\mathbb{C}^n) = L^2((0, \infty), r^{2n-1} dr) \otimes L^2(S^{2n-1}, d\sigma).$$

そして $L^2(S^{2n-1}, d\sigma)$ の $U(n)$ -既約分解は次の通り： \mathbb{C}^n 上の多項式関数 $h(z, \bar{z})$ で z について p 次斉次、 \bar{z} について q 次斉次なものなす空間を \mathcal{P}_{pq} とする。また Δ は $\mathbb{C}^n \cong \mathbb{R}^{2n}$ の Laplacian を表すものとし、

$$\mathcal{H}_{pq} := \{h \in \mathcal{P}_{pq} ; \Delta h = 0\} \quad (\text{調和多項式の空間})$$

とおくと

$$\mathcal{P}_{pq} = \sum_{j=0}^{\min(p,q)} \|z\|^{2j} \cdot \mathcal{H}_{p-j, q-j}$$

が成り立つ。さらに

$$\mathcal{Y}_{pq} := \{h|_{S^{2n-1}} ; h \in \mathcal{H}_{pq}\} \quad ((p, q) \text{ 型の球面調和関数の空間})$$

とすると

$$L^2(S^{2n-1}, d\sigma) = \bigoplus_{p,q=0}^{\infty} \mathcal{Y}_{pq}.$$

このとき、Berezin 変換 B_k は次の定理の様にスペクトル分解される：

$$\varphi_k(r) := \sqrt{\frac{2}{(n+k-1)!}} r^k e^{-r^2/2} \quad (r > 0)$$

とおき、 E_{kj} は $\mathbb{C}\varphi_k \otimes \mathcal{Y}_{jj}$ への直交射影作用素を表すとする。

定理.
$$B_k = \sum_{j=0}^k \binom{n+k+j-1}{j}^{-1} \binom{k}{j} E_{kj}.$$

証明のポイントとなる事実を書き並べておく。 $\mathbf{e}_n := {}^t(0, \dots, 0, 1) \in S^{2n-1} \subset \mathbb{C}^n$ における $U(n)$ の固定部分群を L とする。そして \mathcal{Y}_{jj} に属する函数で L -不変なものなす部分空間を \mathcal{Y}_{jj}^L とする。

(1) $\mathcal{Y}_{jj}^L = \mathbb{C}Y_j$. ただし

$$Y_j(u) := P_j^{(n-2,0)}(2|u \cdot \mathbf{e}_n|^2 - 1) \quad (u \in S^{2n-1})$$

で $P_j^{(\alpha,\beta)}(t)$ は j 次の Jacobi 多項式 (Szegő の記号)。

(2) \mathcal{Y}_{jj} の再生核 $\Phi_j(u, v)$ ($u, v \in S^{2n-1}$) は

$$\Phi_j(u, v) := \frac{(n+2j-1)(n+j-2)!}{2\pi^n j!} P_j^{(n-2,0)}(2|u \cdot \bar{v}|^2 - 1).$$

(3)
$$\int_{S^{2n-1}} |u \cdot \mathbf{e}_n|^{2k} P_j^{(n-2,0)}(2|u \cdot \mathbf{e}_n|^2 - 1) d\sigma(u) = \frac{2\pi^n k!}{(n+k-1)!} \binom{n+j-2}{j} \binom{n+k+j-1}{j}^{-1} \binom{k}{j}.$$

以上より B_k の積分核 b_k が次の様に書ける ($s, r > 0, u, v \in S^{2n-1}$)：

$$b_k(sv, ru) = \varphi_k(s)\varphi_k(r) \sum_{j=0}^k \binom{n+k+j-1}{j}^{-1} \binom{k}{j} \Phi_j(u, v).$$

この研究は藤田悦郎氏と共同である (同氏の京都大学修士論文の一部)。